

自らの立場を知り、与えられた職務に徹することで、人は成長し、澆刺と業務に励むことができます。今週は、倫理法人会の役職を受けることで、自分の家庭や職場を省みることができたK氏の体験を紹介します。

レストランを営むK氏は倫理法人会に入会して三年で単位法人会の会長に推挙されました。そこで、「会長としての心構え」について倫理指導を受けることにしたので、質問に沿って、離婚歴も含めた自分の家庭事情を伝えると、講師より「離婚したことをあなたの子供たちに謝りなさい」「スタッフに笑顔で元気に挨拶すること。とにかく笑っていなさい」と二点のアドバイスを受けました。

K氏は婿養子として、妻の実家のラーメン店で働いていました。バブル期までは二号店を出店するほど繁盛しました。しかし、景気の低迷で、売り上げが伸び悩むようになり、併せて息子の進学費用も含めて家計も苦しくなってきました。その頃からK氏と妻との間で心が離れていき、仕事最優先のK氏は、家族のことを顧みなくなり、離婚の定、妻からは「あなたが理解できない」と言われ、離婚することになったのです。(息子は、分かってくれていい)という思いがありました。講師からのアドバイスもあつたので、連絡を取ることにしました。

息子はすでに三十歳になり、自立しています。久しぶりに対面すると、涙が止まらなくなったのです。自分が情けなく、ふがいない、申し訳なく、様々な思いが交錯しまし



8月のテーマ

困ったことから
開ける道

困難に立ち向かい自らを 省みたとき、周囲が変わる

た。そんな父親の涙に驚いた息子は、父の話に耳を傾けました。そして、次第にK氏の心はほぐれていきました。職場内でのK氏は、スタッフとの間に、距離感と仕事に対する温度差がありました。K氏が途中からレストラン経営を任されたことも影響していると思われ、スタッフの表情はいつも厳しく、頑なな態度がありました。

講師の指導を受けて、K氏は笑顔で朝一番の挨拶をするようにしました。しばらくすると、挨拶以外にも、「ありがとう」「困ったことがあったら相談してほしい」といった言葉も素直にスタッフに伝えられるようになったのです。それからは、職場の雰囲気は一変し、スタッフとの意思疎通や作業ものも円滑になっていったのです。

こうして、倫理指導で受けたアドバイスを実践に移したとき、K氏は倫理法人会の会長という役割につくにあたり、肩肘張らずに、素直に感謝の気持ちを伝え、自らが楽しんで実践する姿を見せることが大切だと思えたのでした。

また単位倫理法人会の会長を受けるにあたり、(目標地点までに、どの道を通り、どんな作戦で進むかは役職者にお任せすればいい。各所に気を配りながら支援をするのが私の役割だ)と自身に与えられた役割を自覚したので、役職を引き受けることは、新たな自己を生み出すことです。そうした自己が過去の自己を振り返り、職場の顔と家庭の顔、そして新しい倫理法人会の顔が作られていくのです。そこには、新鮮かつ真新しい環境が生まれ、周囲のそれぞれの顔も変わっているはずなのです。